

未来への展望 2003年～現在

21世紀の始まりを見ると
世界は決して平安ではない
地球の生態は危機的状況にある
人は生命と自然にもっと注意を払うべきだ
多くの人々の協力を得ながら
動物園でやれることはまだ沢山ある
ゼロから始めて達成するためには、
人々は生命の始まりを尊重することを学ぶ必要がある

生命の碑

色々な生き物が棲んでいる。
ゾウやスズメ、ヒトやチョウだったりする
動物園に訪れれば、楽しいだけでなく知識の探索ができる。
私たちは知る必要がある
私たちは地球の主ではない。
碑は生命への感謝のために建立されている



園内の「生命の碑」



動物サポーター制度

更に開放的なインタラクティブ方法で社会の資源を結び付けながら、積極的に国内外の野生動物保護機関と連携しています。この活動はスローガンや机上の計画ではなく、実践であるので、市民は手に手を取って（実践）活動していることとなります。

保護基地建設へ向けた努力の結集

生命は巡る、これが摂理です。歴史は絶えず進むため、活力の必要な野生生物保全という使命は続いていきます。台北市立動物園はこれまで様々な研究・教育活動を行い、多くの経験と知識を積んできています。今後一層の野生生物保全を進めるため、台北市立動物園は2003年から保全基地となるいくつかの施設を完成させて活動しています。

* 両生爬虫動物館

両生爬虫類の基地と知られている。両生爬虫類に対する誤解をなくし、それらの動物の存在が生態やヒトにとって重要であることを人々に知ってもらう。

* 昆虫館

昆虫の基地として知られている。人はこれらの小動物が非常に多様性に富むことを観察することができる。

* 省エネ館

子供向けの省エネ教育普及センター。自然環境保全を省エネ活動から始めることができることを学びます。

* 湿地生態池

生息地保護のための実践教育園で、湿地の重要性とそれが直面している危機、および湿地保全活動について学ぶことができる。

* 野生生物收容センター

傷を負った、あるいは行き場のない野生動物に安住の場所を与え、同時に希少種の保護繁殖とその研究を進めている。

